

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ <https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/>

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の情報は大学HPで。

Pepper社会貢献プログラム

会場案内に一役

桜坂高と連携

高大連携プロジェクトの一つ、「Pepper社会貢献プログラム」に取り組み石巻専修大学と石巻市立桜坂高校が、8月14日から16日までイオンモール石巻で開催された「石巻圏マイクログリッドパネル展」に協力した。

石巻圏マイクログリッドパネル展

高大連携プロジェクトの一つ、「Pepper社会貢献プログラム」に取り組み石巻専修大学と石巻市立桜坂高校が、8月14日から16日までイオンモール石巻で開催された「石巻圏マイクログリッドパネル展」に協力した。パネル展は、石巻圏地域の魅力を再発見するもので、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、会場の案内役にPepperを起用。Pepperが話す内容やディスプレイに先立ち、2度の会合を設けて準備を進めた。初回は、高橋准教授の進行でコンテンツ案を考案。話し合いの結果、Pepperに興味を持ってくれる子どもをメインターゲットに設定し、マイクログリッドの説明、展示内容の紹介などを簡潔にまとめ、Pepperが読む原稿を作った。その案に沿って、高橋研究室でプログラムを作成した。

東浜小で出前授業

8月6日、石巻市立東浜小学校でPepperを使った出前授業を行った。授業を担当したのは、高橋准教授と木村光平さん(院理工修)。東浜小学校からは児童6人が参加した。3、4年生はPepperに搭載された学習ドリルアプリを体験。5、6年生は好きな言葉や動きを組み合わせてPepperに命令を送るプログラミングに挑戦した。参加した児童からは「Pepperの動く仕組みがわかった」「Pepperを動かすことができて楽しかった」などの感想が聞かれた。

鈴木さんに感謝状

宮城県警

「宮城県警察大学生サイバーボランティア」として活動する鈴木祥太さん(理工2・福島県葵高)が事件解決に貢献し、8月18日、宮城県警本部から感謝状が贈られた。情報電子工学科で学ぶ鈴木さんは、「学んでい

講義通して異文化知る

オンラインで国際体験研修

日本人学生と外国人留学生の交流を通して、それぞれの文化を学ぶ全学共通の「国際体験研修(異文化体験型)」が5月から開講されている。3年目の今年は、新型コロナウイルスの影響で、ウェブ会議システムZoomを用いたオンライン形式で開催。日本、ベトナム、中国の3カ国の学生が受講し、相互理解を深めている。



和やかな雰囲気の中、相互理解を深める学生たち

好スタート

南東北大学野球 秋季リーグ戦

南東北大学野球秋季リーグ戦が8月29日に開幕した。硬式野球部は4戦を終えて3勝1敗で3位と好スタート。優勝を目指し、熱い戦いを繰り広げている。

2人が1位

東北学生陸上選手権

第49回東北学生陸上選手権大会が8月8、9日、宮城県の仙台市陸上競技場で行われた。女子競走部の齋藤智哉さん(経営2・宮城県聖和学園高)が5000mで、フオックス真島新菜さん(経営1・青森県八戸学院光星高)が1500mで先制

深めるとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーションスキルの習得を目指す。

するとそこからチームは勢いづいた。五回に6得点を挙げると、10-0で六回コールド勝ちした。酒井健志監督は「初戦は硬さも見られたが、その後は集力を切らさず戦えている。全員野球で勝利を目指したい」と話した。

でともに1位となった。齋藤さんは同種目で連覇を達成した。9月28日(月)には、岩手県の北上総合運動公園陸上競技場で第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会(杜の都駅伝)の東北地区代表選考会が行われる予定。部員たちは3年連続5回目の本選出場を目指し、トレーニングに励んでいる。



鈴木さんは「自分の行動がきっかけで事件が解決につながった。」

「事件が解決したことがうれしい」と話す鈴木さん。決したことはいくつ、一層のやりがいを感じている。アプリケーションやプログラミングを学んで、将来はソフトウェア開発に挑戦したいと考えている。このサイバーボランティアの活動で得た知識を活用し、夢の実現に向けて努力していきたい」と話した。



AI(人工知能)技術の代表でもある機械学習の応用について研究しています。具体的には、機械学習による予測や判断の根拠を説明する際に役立つ手法の開発や、想定されるリスクや誤判断を回避するために機械学習を制御する方法の開発などに取り組んでいます。AIには「最善の意思決定を自動で提供してくれるもの」というイメージや期待感がありますが、実践では十分な精度が得られないことも珍

消費者視点でAI技術を開発

経営学部経営学科 佐藤 平国 助教 SATO TOSHIKUNI

研究室探訪

しくありません。また、政策の施行や治療法の選択といった場面では単に意思決定の結果だけでなく、その理由や根拠も示された方が納得度が高い。生活者・消費者の視点から安全性の高いAI技術の開発を目指す私の研究は、安心安全な超スマート社会(ソサエティ5.0)の実現につながっていくものと考えています。データサイエンティストには、数学力、プログラミング力、ビジネス力などさまざまな技術が求められるようになりそうです。大学生活の時間には限りがあることを自覚し、興味のあることや頑張れることを見つけたい。私のゼミでは、申し出のあった1年次生が既に活動に参加しており、後期の授業期間でも希望者を受け入れる予定です。多様な研究テーマと一緒に取り組むながら、皆さんの視野や可能性を広げる手助けができればと思っています。